

## 続：アメリカ例外主義——狂った国家的プライド

### 正しい生き方と正しくない生き方がある

Greatchain

2018/5/26

このような副題をつけると、宗教的な説教のように聞こえるかもしれない。そうではない。これはあの悪辣な陰謀団から学んだことである。同様に、神と悪魔が実在することも、彼らのおかげで知ることができた。我々は昔のように、「信ずる者は救われる」などと言われて、信じたくないものを、無理をして信ずる必要はなくなった。起こっていることを観察するだけでよい。

先日報道されたように、英国はいよいよ“オーウェル流”新法を導入した。すなわち、晴れてファシズム国家になった。これは、かなり前から予想されていた。元英首相キャメロンが、国連で、9・11テロの公式説明に反するようなネット情報は取り締められ、と言った。ある人が驚いて、では、これこれはどうなのか？ という公開質問状を発表した。それを私がある新聞で紹介したことがある。キャメロン氏には、よかったね、と言わずばなるまい。

もしこの英法が世界的に広まったら、我々のようなサイトは潰されるだけでなく、場合によっては処刑の対象になるだろう。こんな怖いことはない。しかし同時に、これほど馬鹿々々しいことはない。これを心の底から怖がる人はいないだろう。我々は、現在の、武力や権力で、正しい主張に脅しをかけるような者たちを、心から軽蔑し嘲笑している。なんと時代遅れな、と思っている。(実際、100年遅れている、言っている論客がいる。)それは、いかに恐ろしくても、本質的に見戯、警察ゴッコである。昔のように、本気で、暗黒時代がやってきたと思う者はいないだろう。なぜなら、我々は「ボーッと生きてる」(テレビ番組)のではない、学習しながら生きているからである。

我々は、陰謀団の方々や、アメリカ例外主義信者の方々のおかげで、正しい生き方と、正しくない生き方があることを学んだ。これは宇宙的調和を重んずる生き方と、これを無視する生き方の違いである。特に犯罪や暴力とは関係がない。例えば、法には触れなくても「あこぎな」また、非人間的なやり方で、営利を図るような会社を、潔く退職する人たちが増えてきた。これは、たとえ貧困生活だろうと、宇宙的調和に逆らう生き方より、内面的な充実を

取る、人々が増えてきたということである。これは、宗教とか悟りとかいう大げさなものではない。陰謀団の導くような、常識となったネガティブな生き方に、自然に嫌気がさしてきたということにすぎない。これも見方によれば陰謀団の功績である。

我々は成長している——おそらくここ短期間に。人を騙し、人の自由意志や国家主権を奪い、強制して他者を従わせるようなやり方は、敗退せざるをえない。それは、(よくホログラフィと言われるような)内外・自他の宇宙的調和に、意図的に逆らう生き方であるがゆえに、滅びざるを得ない。「意図的に逆らう」とは、サタンに調和して生きるということである。これは、イルミナティが科学者に推奨する唯物論の原理であり、愛に対する憎しみの原理でもある。

このサイトは終わりになるかもしれない。しかし、これまでに載ったものだけで、この単純な原理は十分に伝わるはずである(いったん電算化されたものは消すことができない、とSOTNは言っている)。これは勉強するような原理でなく、誰でも知っていることで、ただ、その知っていることに念を押すように、目の前で争いが繰り広げられ、明らかに滅びにいたるそのシナリオが見えてくる。

## 儒教の秩序と新世界秩序

これは、本腰を入れてゆっくり論ずべきことだが、ここでは要点だけ述べておきたい。

儒教には、その教えを要約するような「格物、致知、誠意、正心、修身、齐家、治国、平天下」という言葉がある。普通は、「修身齐家治国平天下」の部分だけを引用することが多い。これはイルミナティ陰謀団の New World Order の秩序とは、正反対の秩序である。そのこと自体、彼らの存在のおかげで気づかされた貴重な観点である。

両方とも政治的秩序の構築の順序を述べたものだが、儒教の方は、最も正しい心の動きから始まり、自分の振舞いを正し、家庭を正し、国を正し、正しい世界秩序に至る。NWOの方は、用意周到に、密かに人民を騙し錯覚させ、工作を進めておいて、ある日突如として、一世界政府の樹立を宣言する。それまでに骨抜きにしておいた人民は、従うはずで、反乱などは起こらない。これが、我々の受けている愚民政策(唯物論教育)であり、我々の「健康のため」と称するワクチン政策であり、神の秩序を破壊するペドフィリアである。オーウェルの『1984年』が、その予言だったとして話題になるが、その狡知のからくりは、ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』の中の、劇中劇「大審問官」に、うまく説明されているのではないだろうか。

儒教の世界秩序の構築段階の、自分の人格完成と、世界平和の間に、「齐家」すなわち正しい家庭秩序、正しい男女関係が入っていることに注目されたい。これは、サタンの「新世界秩序」では破壊の対象である。だから共産主義（NWOと同根、マルクスは彼らの要請によって『共産党宣言』を書いた）では、私有財産や、宗教、愛国心などと同じように、家庭制度を放棄すべきことになっている。ここを見ただけでも、正反対の秩序が対立していることがわかる。

今、この儒教的秩序の世界的チャンピオンは誰か？——プーチン大統領である。彼は特に「齐家」の部分強調した。ここから先は何度も言ったことだが、繰り返す。参照していただきたいのは我々の記事、「**プーチン：家庭の価値を破壊しようとする NWO を滅ぼすのは私の義務——露大統領が、エリートたちは社会を破壊するために、セックスを利用していると指摘**」である。その冒頭のセンテンスだけを引いておくと——

ロシア大統領ウラジミール・プーチンは、家庭の価値を貶め、地球社会に対し、セックスを武器として使おうとしている New World Order を、破壊すると誓った——「現在、国家の責任者として、伝統的な諸価値と家庭の価値を守り抜くのは、私の義務だと考えています。」

プーチンはまた、最近、西側のエリートたちが、家庭の価値を放棄するもう一つのやり方として、ペドフィリアを、ノーマル化しようとしていることを厳しく非難し、彼らは「過激で誇張された“政治的正しさ”」を一つの文化にしようとしている。それは、もし手を打たなければ、西洋文化を破壊してしまうものだと言った。

家庭の破壊が進歩的だと思っている、そしておそらくプーチンを侮っている、日本の文化人の方々は、これほどの鋭い分析を示すプーチンを、しっかり認識していただきたい。